



SNS を通じて様々な情報を発信しています

NUMO では、地層処分事業はもちろん NUMO の活動を様々な情報発信ツールを活用して、全国の皆さまにご紹介しております。ぜひ、QR コードよりアクセスして見てください。

【ホームページ】 NUMO の活動などをご紹介します！

＜主な内容＞

- ・ NUMO 事業
- ・ 地層処分について
- ・ 文献調査の状況
- ・ トピック
- ・ プレスリリース

etc



【Instagram】 フォロワー数 2035 人 地層処分をわかりやすくご紹介しています！

＜主な投稿＞

- ・ まちの魅力
- ・ クイズ
- ・ グーモ
- ・ イベント紹介

etc



【Facebook】 フォロワー数 1.6 万人

＜主な投稿＞

- ・ シン・ちか通信
- ・ 対話型全国説明会
- ・ 新職員の紹介
- ・ 国際セミナー

etc



【YouTube】 チャンネル登録者数 1510 人 地層処分に関する動画などを取り揃えています！

＜主な配信＞

- ・ TV 番組・CM
- ・ 学習、教育支援
- ・ 専門家に聞く
- ・ 海外の状況

etc




町民の皆さまへ

「地層処分」や「文献調査」をご説明いたします

○NUMO 職員が映像や資料でわかりやすくご説明いたします。お気軽にご相談ください。

○ご希望の方は「**NUMO 玄海交流センター**」までご連絡ください。

交流往来 黄金色の田も稲刈りを終え実り多く今年も豊作のようです。前回の発刊は初夏でしたが月日が経つのも早く秋深まる時期となりました。今年は、酷暑日、台風、地震、豪雨と自然の力が猛威をふるった夏でした。近年は、地球温暖化の影響が“異常”が付くくらいの気象現象に驚かされます。温暖化防止のためのできることから始めたいものです。＜M＞

問い合わせ先：NUMO（原子力発電環境整備機構）玄海交流センター ☎（0955）52-5011

第7号
2026.10

NUMO
原子力発電環境整備機構

～ NUMO 玄海交流センターだより ～

このお便りは、玄海町における高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する文献調査の開始に伴い、原子力発電環境整備機構（NUMO/ニューモ）から町民の皆さまへ調査に関する情報をお知らせするものです。

@「ジオラボ号」 in 玄海交流センター 夏休みイベント開催

当交流センターを“もっと”身近に感じていただくために、移動展示車「ジオラボ号」の展示と実験や工作体験など各種コーナーを設けた夏休みイベントを8月9日(日)に開催しました。

当日会場では、粘土（ベントナイト）を使った“ふしぎ”な実験、化石掘り体験、工作教室「カップケーキ作り」等の企画を実施し、たくさんの方にご参加いただきました。大変ありがとうございました。

今後も、当交流センターにお越しいただけるような各種イベントなどを積極的に開催してまいります。



@玄海町の中学生が NUMO 東京事務所に来所



8月20日(木)玄海町主催の中学生夏休みエネルギー体験ツアーにおける研修プログラムの一環として、町内の中学生18名が東京都港区にある NUMO の事務所に来所されました。

研修では、玄海町で実施している文献調査によって収集した地質図や玄海町の歴史的な資料等を NUMO の専門職員が詳しく説明いたしました。実際の文献に触れた中学生は興味深く資料などを確認していました。そのほか、地層処分の緩衝材として使われる粘土(ベントナイト)を使った実験などを体験していただきました。

なお、東京事務所への来所は昨年引き続き2回目となります。

第6回「対話を行う場」開催報告

「対話を行う場」は玄海町の皆さまに文献調査の進め方や進捗状況及び地層処分事業について“知っていただくこと”“意見交換していただくこと”を目的としております。昨年4月より開催しており、今回は第6回目の開催となりました。

当日の様子は、これまでと同様にケーブルテレビ「チャンネル玄海」にて放送するとともに、NUMOのホームページにて公開いたします。

◎開催結果の概要

日 時 2026年8月27日（木）18:00～20:15
会 場 玄海町役場 4階大会議室
参加者 21名（各種団体所属18名、一般公募3名）
進行役 吉田まりえさん（九州の暮らし創造研究所代表）
主 催 「対話を行う場」実行委員会 八島委員長ほか3名
オブザーバー 玄海町、経済産業省

当日のプログラム

開会・実行委員会挨拶

情報提供：地層処分事業の概要
文献調査の進捗状況

意見交換（非公開）

ご意見・ご質問への回答
（非公開）

主なご質問と回答

@集めた文献で一番古い時期は。（古い資料は信頼できないのではないかな）

現時点において、収集した文献調査対象地区に関する情報を確認した中で一番古いものは1880年代の温泉に関する文献となります。

文献調査では、学術論文など「品質が確保され一般的に入手可能な文献・データ」を収集しています。

文献が古いからと言って必ずしも情報が劣っているわけではありません。現在では確認できない場所の情報等が反映されている場合もあり、貴重な情報源として活用しています。解釈が変わっている場合は考慮しています。《回答：NUMO》



日高町長ご挨拶



「対話を行う場」は、令和6年5月に玄海町が文献調査を受け入れたことから定期的に実施されています。文献調査が開始されて2年が経過し、報道機関を含め報告書の提出時期に関して話題になっていることは承知しています。本日は、NUMOから文献調査の進捗状況の説明があるものと考えていますが、本会は、原子力発電の活用により生じる高レベル放射性廃棄物とは何か、処分方法の地層処分とは何か、さらには玄海町における文献調査とはいかなるものかについて、町民の皆さまに知っていただくことを目的に開催されています。

今回で第6回目の開催となりますが、参加いただいた町民の皆さまには、率直なご意見を多く出して頂き、有意義な会にして頂ければ幸いです。

@調査地点が複数あがった場合、どのように最終決定するのか。

例えばフィンランドでは地層処分に適した地質環境であることを大前提に輸送の“しやすさ”や地域のご理解の状況なども含め総合的に検討し処分地を決定しています。わが国としても、こうした諸外国の事例も参考に検討して参ります。

《回答：経済産業省》

@放射能が漏れているか、どのように確認するのか。地下水の影響で処分場を安全に操業できるのか不安。

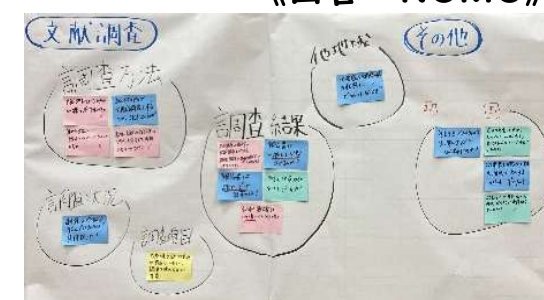
原子力規制委員会が今後策定する安全規制を遵守していくこととなりますが、埋め戻し（閉鎖）までの間は常にモニタリングを行い、問題がないか監視するとともに、埋め戻し後の取り扱いについても、地域の皆さまに安心いただけるよう、地域の方々と相談しながら対応を進めて参ります。

《回答：NUMO》

@閉鎖した後はどうするのか。ガラス固化体は、1000年後に取り出すのか。

地層処分は、ガラス固化体を人間の生活環境から長期に隔離することを基本とする方法であり、1000年後に取り出すことは予定しておりません。

全て埋め戻した後は、規制当局が定める方針や地域の皆さまのご意向を踏まえ、一定期間はモニタリングを行う計画です。万が一、処分場閉鎖後に不測の事態が発生した場合は、影響の度合いと回収の困難性などを総合的に考慮し、対応策を検討いたします。《回答：NUMO》



@海外の処分事業が進んでいる国とでは地層が異なるが、日本は同じ“やり方”で進めてもよいのか。

海外も地層処分という同じ処分方法が採用されています。各国の地層にはそれぞれの特色があります。地層処分が地下深部に期待する「ものを閉じ込める」といった機能の観点からは、海外も日本も基本的には同じです。例えば海外と同じように、このような機能を評価するために、岩盤の透水性や物質の吸着性など評価していきます。《回答：NUMO》



主なご意見

@スパンが長すぎてピンとこない

@国が主導になって事業を進めるべき

@子供達を含む将来世代に学びの機会を与えた方がよい

など

*その他のご質問への回答は、後日 NUMO のホームページに掲載いたします。

ご質問への回答集や情報提供資料はこちら

NUMO ホームページ「文献調査：佐賀県玄海町調査の状況と対話の記録」
https://www.numo.or.jp/chisoushobun/survey_status/genkai/

